

拝啓 今年も早や3月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。3月に入って急に暖くなり、近所の公園では、桜が3月23日現在でほとんど満開の様子でした。木蓮は終わり、桃や海棠が咲き出しました。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第二の手紙講解説教』からの引用の8回目ですが、今回の「エンカウンター」の7ページ、「やさしさと寛大さ」という項目には、次のようにあります。

「さて『あなたがたの間において面と向かってはおとなしいが、はなれていると、気が強くなる』、このパウロが、キリストの優しさ、寛大さをもって、あなたがたに勧める。」(コリントⅡ 10.1)

これが、10章でいわんとするパウロの概説、大体の精神であります。括弧の内容は、反対者によるパウロに対する非難です。ここの「勧める」という字は非常に強い言葉であり、反対者の君たちに強く望むという意味であります。「キリストの優しさ、寛大さ」とありますが、「優しさ、寛大さ」これがキリスト者の特徴、愛の精神の標本的な現れです。我々の信仰のバロメータはここに出て来ます。本当に強いクリスチャンは、本当に優しい。この優しいは、英語では「meek」と書いてありますが、聖書には、モーセは地上におけるどの人間よりも優しくたと書かれています。…パウロは、このやさしさと寛大さをもって、反対者であるあなた方にこれから勧めると言っているのです。

優しさと寛容さが身につけば、素晴らしいことだと思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

#### 小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』3月22日

「主の名を呼びつつ——私のキリスト教

ロマ書10章13節に言う「主の御名を呼び求める者はすべて救われる」というのは、「わが主イエスよ」ということが「イエスに対する信仰によって罪の赦しと潔められたる者のうちの嗣業とを得」(使徒行伝26章18節後半、文語訳)たることを意味するからである。「わが主イエスよ」と言うことは、なお、私の祈禱でもある。また私の感謝でもあり、私の喜びでもあり、また、私の平安である。

私にとって、「わが主イエスよ」と言うことは、ロマ書12章1節の「私のからだを生きた供え物として神に捧げる」ことである。

私のキリスト教は、なんと容易なことよ。その訳は、主の御名を称えつつ、普通の日常の生活をするに過ぎないからである。」

#### 新渡戸稲造先生『一日一言』3月22日

「西暦1832年の今日、ドイツの文豪ゲーテが世を去った。才能あらゆる方面に向いて卓絶せる彼は、常に『急ぐなかれ、たゆむなかれ』の主義を守りて、かの大業を残した。なすべき事、なしたき事を数うれば、気のみせわしく、何より始めんかと迷うばかりにして、

その揚げ句は何もせずに一生を終わるのみ。終生の業は、その日その日の義務を完了するより外にない。」

### 松下幸之助先生『続・道をひらく』「雲」

「喜びもよし、悲しみもまたよし。人の世は雲の流れの如く刻々に移り変わる。

そう思い定めれば、あるいは人の心の乱れも、幾分かはおさまるかも知れない。そして、喜べども有頂天にならず。悲しめどもいたずらに絶望せず、こんな心境のもとに、人それぞれに、それぞれのつとめを、素直に謙虚にそして真剣に果たすならば、そこにまた、人生の妙味も味わえて来るのではなからうか。」

### 内村鑑三先生『統一日一生』3月16日

「信仰は単純なるを要す。単純ならざれば明瞭ならず。また単純ならざれば熱心なること能わず。幾多の問題に思惟（おもい）を奪われ、あまたの教義に注意を分かたれて、信仰は熱心ならんと欲するもあたわないのである。……法然上人によりて、仏教が南無阿弥陀仏の6字に簡約せられた時に、日本における仏教の普遍的感化が始まったのである。日蓮上人もよくこのことを解し、彼の信仰を南無妙法蓮華経の7字につづめて、導化の大功を奏したのである。世に冗漫なる信仰の如く無能なるものはない。一言を持ってわが信仰をつくし得るまでは、われはわがうちにおいて平らかなる能わず、また外に向かって明瞭にわが信仰を述ぶることが出来ない。

内村鑑三先生の「一日一生」の3月の初めのページに、ゲーテの「急がずに、休まずに」の訳が出ていましたので、それも記します。

「急がずに、休まずに」      ゲーテ、内村鑑三訳

「急がずに、休まずに」  
これぞ、汝の胸飾り  
心の底の奥に留め  
波風荒く吹き捲（ま）くとも  
花咲く小道たどるにも  
世を去るまでの旗章（はたじるし）

「急がずに」、心して  
心の駒の手綱（たずな）取れ  
静かに思い、よく計り  
決めて全力もて進め、  
急がずに、年を経て

思慮なき行為（わざ）に悔やみすな

「休まずに」、よく励め  
過ぎ行く年の足早し  
何か朽ちざる良き事業  
浮世の旅の記念物  
遺（のこ）して我の実は果つも  
世々に長生（ながら）う、その榮譽

「急がずに、休まずに」  
静かに天の命（めい）を待て  
義務は汝の指南軍  
何はともあれ正を踐（ふ）め  
急がずに、休まずに  
戦闘（たたかい）終えて後の冠

#### バークレー先生「ウィリアム・バークレイの一日一章」1月23日

「もう一度手紙の事

私は今アメリカから1通の手紙を受け取ったところである。私の知らない婦人からのものだが、封筒の裏にこう書いてある。

手紙よ、野越え山越え、海越えてゆけ  
お前を運ぶすべての人を、神よ、祝し給え、  
目的地なる家の人びと  
とりわけ宛名の人を祝し給え。

この手紙をきっかけに、私は手紙を書く場合の規則のようなものを記してみたくなった。すぐに書きなさい、返事はすぐに出しなさい。

読めるように——特に自分の氏名と住所は、分かりやすく書きなさい。

新約聖書の中に手紙について書かれた個所がある。クリスチャンはそれを決して忘れてはならない。即ちパウロは、コリントの友人たちにこう書いているのである。「君たちはキリストの手紙なのだ」（コリント第2, 3・3）つまり、イエス・キリストは、私たちを通して、世の人々の語りたまうのである。

イエスは神の言（ことば）であり、私たちはイエスの手紙である。これはクリスチャンの特権であるとともにまた責任でもある。」

#### カウマン先生『山頂を目指して』3月18日

「かじ屋が仕事をしているのを見よ。その仕事がどのようになされて行くかに注目して

ほしい。筋肉が必要であり、頭脳もまた必要である。ハンマーで、一打ちまた一打ちと、辛抱強く打ち続ける、そしてついに、完全な蹄鉄が出来上がる。それは早急になされたのではない。執拗さが、また、力と闘士が必要であった。私たちすべての者は、そのような仕事をしなければならない。(疲れてしまったり、しり込みしてはならない)。1時間ではなく、1日ではなく、1週間でもなく、1カ月でもなく、1年でもない。どれほど長く続くかは、誰にも分らないのである。(若者よ、頑張り続けよ。成功は近くにある)。少年よ、打ち続けよ、打ち続けよ。」

妻山口和枝が2月3日召天し、2月9日、早稲田教会にて葬儀を済ませ、それから1月以上たちましたが、死去に伴う色々な事務的な手続きを進めています。療養期間中に食事作りを担当したことが毎日の食事作りに役立っており、毎日平安のうちに過ごしております。

新型コロナはやっと最近では、流行が下火になり、インフルエンザと同じ扱いにすることになるようですが、しばらくは、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

3月24日

山口周三

エンカウターの読者各位